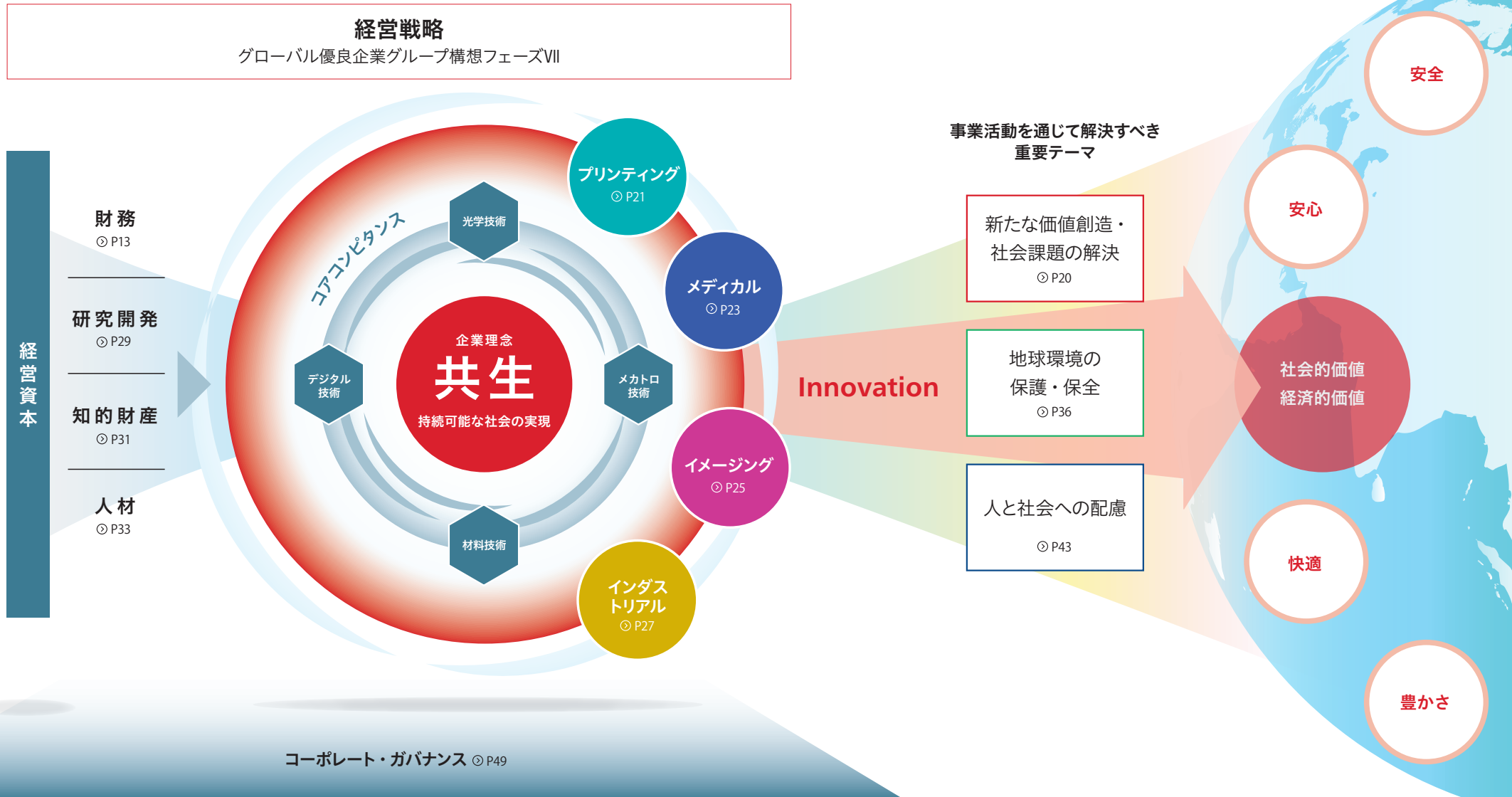


# 価値創造プロセス

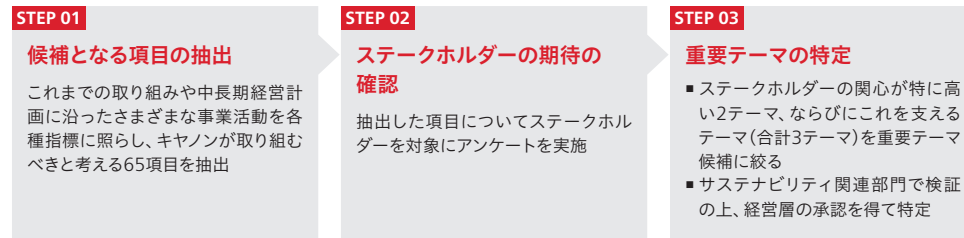
キヤノンは、企業理念の「共生」を中心に、豊富な経営資源とコアコンピタンスである技術を駆使し、4つの産業別グループの事業活動を通じて、競争優位性の確立と事業価値の最大化を図っています。また、事業活動を通じて解決すべき3つの重要テーマを特定し、社会の「安全」「安心」「快適」「豊かさ」の向上につながる新たな価値を創造します。こうした価値創造プロセスを通じて、キヤノンは社会的価値と経済的価値の両立を図り、持続可能な社会の実現と企業価値の向上をめざします。



# 重要テーマとSDGs

## 重要テーマ特定プロセス

キヤノンでは、下記の3つのステップを経て、ステークホルダーの関心が特に高い「新たな価値創造、社会課題の解決」と「地球環境の保護・保全」の2テーマに加え、これらに取り組む上で支えとなるテーマを「人と社会への配慮」として集約し、3つの重要テーマとしました。






## ステークホルダーへのアンケート調査\*

社内外の動向の変化にあわせて、ステークホルダーが関心をもつ社会課題やキヤノンへの期待を把握するために、アンケート調査を実施しています。この結果のほか、サステナビリティの専門家や投資家などの意見も参考に、重要テーマの妥当性の確認や見直しを行うなど、社会に対するキヤノンの事業活動のインパクトを分析し、企業活動のより一層の充実を図っています。

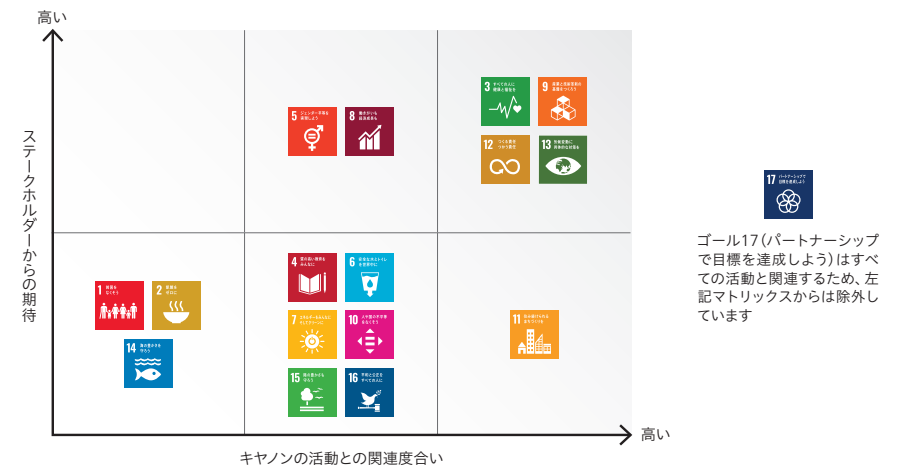
※ アンケート調査対象者：日本・米州・欧州・アジア・その他地域在住の消費者、サプライヤー、投資家・アナリスト、NPO、市民団体、大学・研究機関関係者、官公庁・自治体関係者のステークホルダー100人

## 3つの重要テーマ

特定した重要テーマ	ステークホルダーの期待(抜粋)	代表的な施策	関連するSDGs
<b>新たな価値創造、社会課題の解決</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の健康や病気の予防に貢献する医療技術の開発</li> <li>社会の安心・安全に資するセキュリティ技術の進化</li> <li>写真や映像分野における人々の豊かさや楽しさにつながる製品/技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「プリンティング」「メディカル」「イメージング」「インダストリアル」の各グループの事業活動を通して新たな価値創造、社会課題の解決を図っています ○ P20-28</li> </ul>	
<b>地球環境の保護・保全</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー化の促進/再生可能エネルギーの活用</li> <li>使用済み製品のリユース・リサイクル</li> <li>廃棄物の削減/水域・土壌の汚染防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TCFDに即した開示など、ステークホルダーのニーズに応じた情報を開示しています ○ P37-39</li> <li>2050年 GHG 排出量ネットゼロの達成に向けて、ライフサイクル全体で活動しています ○ P38-39</li> <li>資源消費の抑制と高度な資源循環の実現に取り組んでいます ○ P40</li> <li>製品含有化学物質管理など、サプライチェーン全体での管理を推進しています ○ P41</li> </ul>	
<b>人と社会への配慮</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>差別やハラスメントの防止/基本的人権の尊重</li> <li>適正な賃金と労働時間の管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権方針の策定、人権リスクの特定など、人権尊重に取り組んでいます ○ P43-46</li> <li>サプライチェーン全体で、地球環境・人・社会に配慮した活動を推進しています ○ P47-48</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動を生かした社会貢献活動</li> <li>次世代の育成支援</li> </ul>		

## 重要テーマを通じたSDGsへの貢献

キヤノンはさまざまな事業活動を通じてSDGsの達成に貢献しています。アンケートをもとに把握した各SDGsに対するステークホルダーの期待と、特定した3つの重要テーマを踏まえたキヤノンの活動との関連度合いを、以下のマトリックスに整理しました。社会の期待の変化を的確にとらえながら、自社の技術やソリューションを有効に活用し、SDGsの実現に貢献していきます。



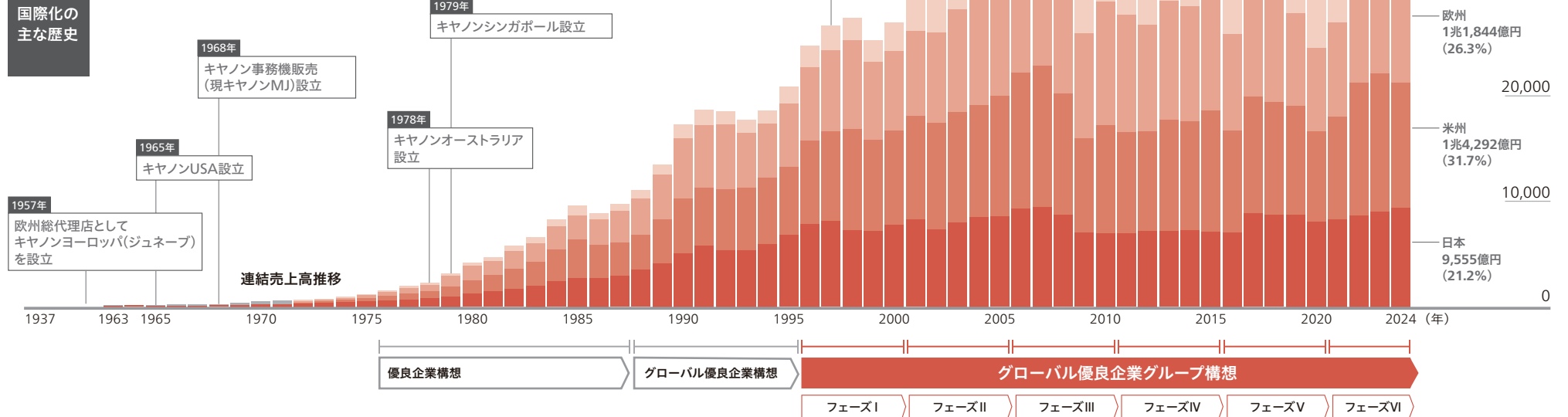
# キヤノンの歩み ——— 国際化

キヤノンは早くから国際展開をはじめ、グローバルブランドへと成長してきました。

地域別売上高  
(2024年)  
**4兆5,098億円**

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア ■ 海外\*

※ 1971年以前は日本以外の売上高は海外として一括で集計



**1950年代**

- 1950年 下丸子に本社、工場を集結
- 1955年 ニューヨークに初の海外拠点を開設

**1960年代**

- 「キヤノンフレックス」「キヤノネット」「キヤノラ130」などの製品を米国で販売開始

**1970年代**

- 1970年 日本以外の初の生産拠点、台湾キヤノン設立
- 1972年 ドイツに欧州初の生産拠点を設立

**1980年代**

- 1984年 米ヒューレット・パッカド (HP)社にレーザープリンターのOEM供給を開始

**1990年代**

- 1996年 国際競争力の向上を目的とする「グローバル優良企業グループ構想」を開始

**2000年～**

- 2000年 ニューヨーク証券取引所に上場(2023年3月上場廃止)

# キヤノンの歩み

## 国際化の現在

(2025年12月31日時点)

売上高 (2025年)

4兆6,247億円

従業員数

165,547人

純利益 (2025年)

3,321億円

連結子会社数

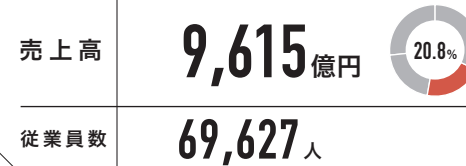
321社

### 欧州



キヤノンヨーロッパ

### 日本



キヤノン本社  
キヤノンマーケティングジャパン

### 米州



キヤノンUSA

### アジア・オセアニア



キヤノンシンガポール

キヤノンオーストラリア

#### 主要拠点

- 研究開発・ソフトウェア開発
- ▲ 製造
- 販売
- ◆ その他

# キヤノンの歩み ——— 多角化

キヤノンは既存技術と時代の先端技術を組み合わせて新事業を創出してきました。

## 主な製品の歴史

■1934年  
国産初の35mm  
レンジファインダーカメラ  
「カンノン」試作

■1936年  
商品化第1号の高級35mmカメラ  
「ハンザキヤノン」発売

■1941年  
国産初の35mm判  
X線間接カメラ  
「CX-35」発売

■1961年  
キヤノン初の  
中級35mmカメラ  
「キヤノネット」発売

■1964年  
世界初テン(10)キー式電卓  
「キヤノラ130」発売

■1966年  
国産初の35mm判  
X線間接カメラ  
「CX-35」発売

■1970年  
国産初の半導体  
露光装置  
「PPC-1」発売

■1970年  
国産初の普通紙複写機  
「NP-1100」発売

■1971年  
本格的プロ向け  
システムカメラ  
「F-1」発売

■1976年  
世界初の無散瞳  
眼底カメラ  
「CR-45NM」発売

■1976年  
一眼レフのユーザー層を拡大させた  
マイコン搭載カメラ「AE-1」発売

■1979年  
世界初の半導体レーザーを  
使った卓上レーザービーム  
プリンター「LBP-10」発売

■1985年  
世界初のバブルジェット方式  
インクジェットプリンター  
「BJ-80」発売

■1986年  
液晶露光装置「MPA-1500」発売

■1987年  
オートフォーカス  
一眼レフシステム  
「EOSシリーズ」発売

■1987年  
世界初のフルカラーデジタル複写機  
「カラーレーザーコピーA1」発売

■1989年  
EOSシリーズの最高機種  
「EOS-1」発売

■1998年  
医療用X線デジタル撮影装置の  
販売を開始  
「CXDI-11」発売

■1998年  
グラフィック用大判プリンター  
市場に参入  
「BJ-W7000」発売

■2001年  
プロ用最高級デジタル  
AF一眼レフカメラ  
「EOS-1D」発売

■2000年  
ネットワーク複合機  
「imageRUNNERシリーズ」発売

■2007年  
デジタル商業印刷市場に本格参入  
「imagePRESS C7000VP」発売

■2011年  
映像制作市場に  
「CINEMA EOS SYSTEM」で本格参入

■2018年  
「EOS Rシステム」の  
第1号機「EOS R」発売

■2019年  
世界初のディーブラーニングを活用したノイズ除去  
再構成技術を搭載したMRI装置を発売

■2021年  
ディーブラーニング  
を応用した超解像画  
像再構成技術搭載の  
CT装置を発売

■2023年  
次世代半導体製造装置  
ナノインプリント半導体  
製造装置を発売

メディカル

インダストリアル

プリンティング

イメージング

## 多角化を推進する主な出来事

### プリンティング

- 2010年 業務用・商業印刷機大手のオセ(現キヤノンプロダクションプリンティング)がグループ入り
- 2022年 ラベル・パッケージ印刷機を手がけるイーデールがグループ入り

### メディカル

- 2016年 医療機器大手の東芝メディカルシステムズ(現キヤノンメディカルシステムズ)がグループ入り
- 2019年 MRIの基幹部品である高周波コイル開発を手がけるクオリティエレクトロダイナミクス(QED)がグループ入り
- 2021年 フォトンカウンティングCTに用いる放射線検出技術を有するレドレンテクノロジーズがグループ入り
- 2023年 体外診断用医薬品・自動分析装置を手がけるミナリスメディカルがグループ入り

### イメージング

- 2014年 ビデオ管理ソフトウェア大手のマイルストーンシステムズがグループ入り
- 2015年 ネットワークカメラ大手のアクシスがグループ入り
- 2018年 映像解析ソフトウェアを手がけるブリーフカムがグループ入り

### インダストリアル

- 2005年 真空技術と薄膜技術を有するアネルバ(現キヤノンアネルバ)と、自動化機器・半導体製造装置などを手がけるNECマシナリー(現キヤノンマシナリー)がグループ入り
- 2007年 有機EL製造装置などを手がけるトッキ(現キヤノントッキ)がグループ入り
- 2014年 ナノインプリント装置の研究・開発を手がけるモレキュラーインプリント(現キヤノンナノテクノロジーズ)がグループ入り

### 新規事業

- 2023年 京都製作所から治療用などの細胞を大量製造可能な装置技術を譲受
- 2026年 キヤノン電子を完全子会社化し、宇宙事業を将来の成長戦略に位置づけ